④ 計画の見直し　「まちづくりについてのアンケート調査結果（速報）」

❶ アンケートの目的

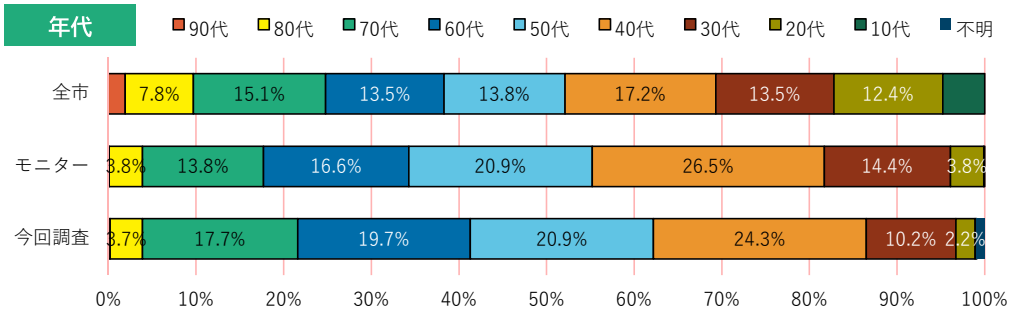
倉敷市都市計画マスタープランの見直し及び倉敷市立地適正化計画の策定を進めるにあたり，**市が目指す「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくり実現**に向けて，現在の日常生活のスタイルや，将来のまちづくりに関する市民の考えを調査する。

❷ 調査実施概要

実施期間：令和2年7月10日～7月20日（11日間）
実施方法：市に登録されている市民モニター（倉敷市市民モニター制度）を対象としたWebアンケート調査
送付数　1,252件，回答数：598件（全設問項目の有効回答者数598人），回答率47.8%

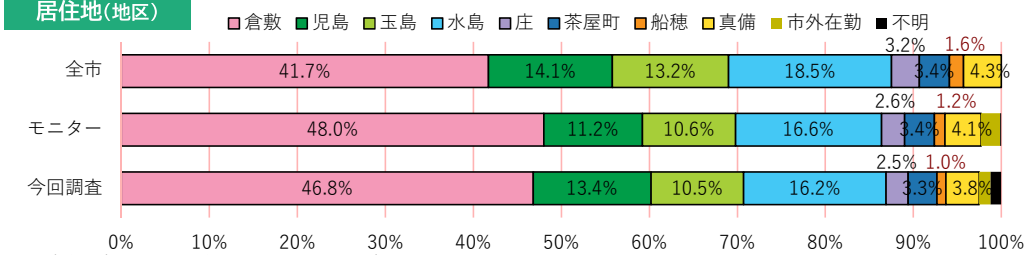
❸ 回答者属性

年代



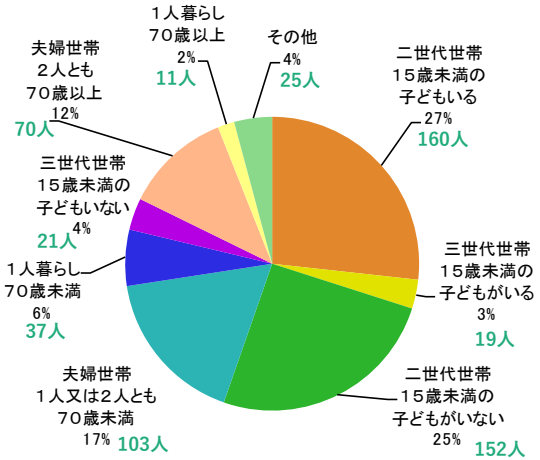
※全市は令和２年３月末の値　※モニターは令和２年４月３０日現在

居住地（地区）

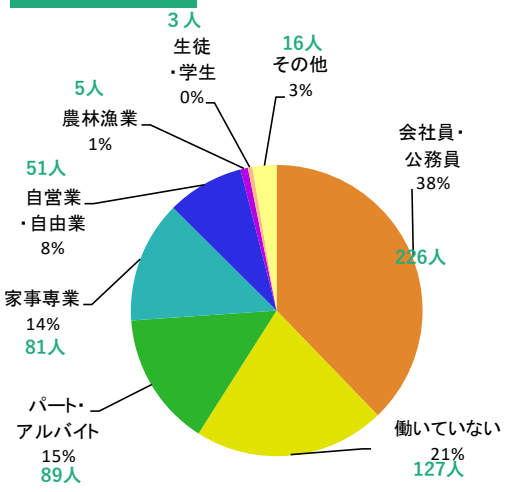


※全市は令和２年３月末の値　※モニターは令和２年４月３０日現在

世帯構成



職業



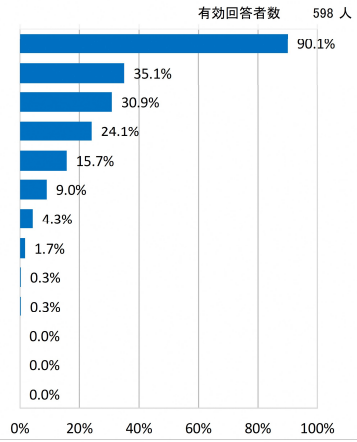
❹市民のライフスタイルについて

- 主な外出手段として「自動車を自分で運転」が突出していることから，多くの人がマイカーによる移動をしており，過度に自動車に依存したライフスタイルが定着していることがわかる。

主な外出手段は？

選択肢	回答者数
自動車を自分で運転	539 人
自転車	210 人
徒歩	185 人
鉄道	144 人
家族や知人の自動車に同乗・送迎	94 人
路線バス	54 人
バイク	26 人
タクシー・ハイヤー	10 人
路面電車	2 人
コミュニティタクシー	2 人
貸切バス（学校送迎・施設送迎等）	0 人
介護・福祉タクシー・福祉有償運送の車両	0 人
その他	0 人

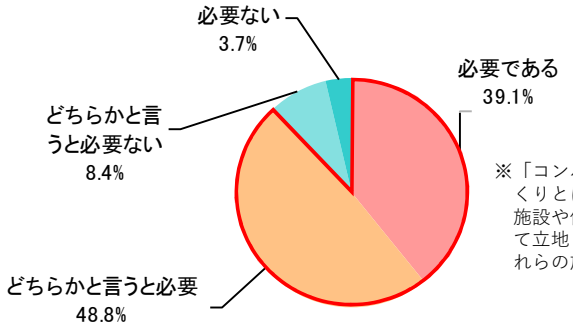
※複数回答のため，割合総計が100%を超えています。



❺ コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりについて

- 「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進めることについては，**「必要である」「どちらかと言うと必要」との意見が87.9%**を占めており，多くの方が必要性を認識している。

コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりは必要・不要？



※「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりとは，生活に必要な医療・福祉・商業などの施設や住居等がなるべく「まちなか」にまとまって立地し，多くの市民が徒歩や公共交通によりこれらの施設にアクセスできるまちづくりのこと

倉敷市市民モニター制度とは
市政や市民生活にかかる課題などについて，倉敷市からのアンケートにお答えいただく市民モニターを募集し，皆様の声を市政に反映させている。インターネットを活用することで，簡単に，かつ素早く調査を行い，市民の生活向上に役立てる制度。
（市内に住所を有し，または市内に通勤・通学する16歳以上の人をモニター制度の会員として登録）

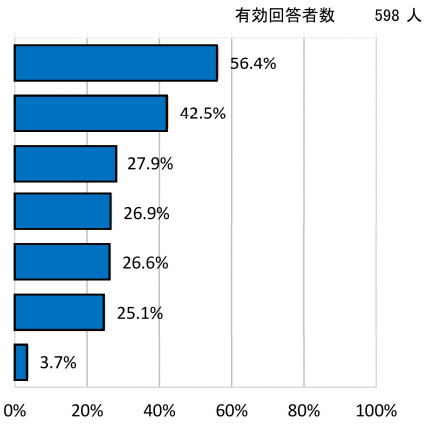
❻倉敷市のまちづくりについて，満足度の低い取組は？

- 倉敷市のまちづくりに関する取組の中では，「河川整備等による治水対策」，「バスなどの公共交通の充実」，「狭い生活道路の解消」，「情報公開や情報提供の推進」，「身近な生活空間の中における小公園・広場の整備・充実」，「市域全体の良質な景観整備・美化の推進」などの満足度が低い状況。

「まちなかの活性化と地域間の連携によるまちづくり」

選択肢	回答者数
バスなどの公共交通の充実	337 人
倉敷駅周辺の鉄道高架化による南北交通の円滑	254 人
まちなかの賑わい空間の整備	167 人
駅前の駐輪・駐車場の整備	161 人
地域間をつなぐ幹線道路の整備	159 人
駅前広場や駅周辺道路などの整備による回遊性の向上	150 人
全て満足している	22 人

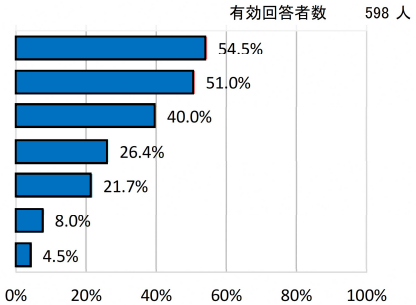
※複数回答のため，割合総計が100%を超えています。



「安全・安心・快適で暮らしやすいまちづくり」

選択肢	回答者数
狭い生活道路の解消	326 人
空き家や空き地を減らす取組	305 人
駅や道路などでのバリアフリー化の促進	239 人
ゴミや廃棄物の処理体制の充実	158 人
生活排水等の下水道の整備	130 人
公営住宅の整備・充実	48 人
全て満足している	27 人

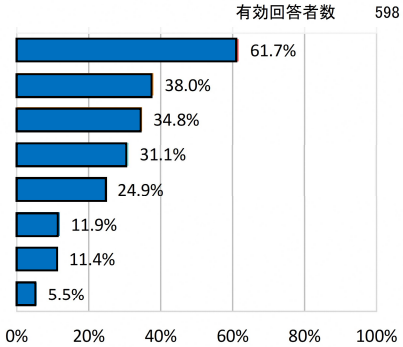
※複数回答のため，割合総計が100%を超えています。



「災害に強いまちづくり」

選択肢	回答者数
河川整備等による治水対策	369 人
避難地・避難路の確保	227 人
防災情報提供・避難体制の強化	208 人
木造家屋が密集する地区の防災対策	186 人
建物や橋梁などの耐震化	149 人
災害物資等を輸送する道路の整備	71 人
建物等の耐水化	68 人
全て満足している	33 人

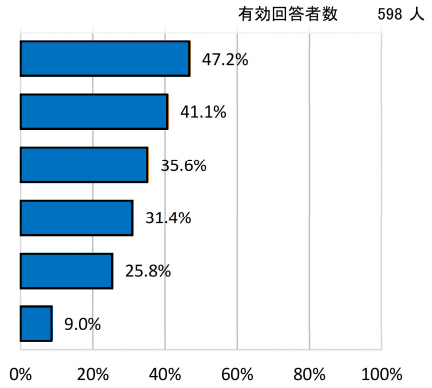
※複数回答のため，割合総計が100%を超えています。



「水・緑・文化　豊かなコミュニティと交流を活かすまちづくり」

選択肢	回答者数
身近な生活空間の中における小公園・広場の整備・充実	282 人
歴史文化を学び親しむ休憩スポットや散策路の整備	246 人
海・港・河川などの水辺の親水空間の整備	213 人
地域の特色ある交流イベントの促進	188 人
水・緑・文化を活かした，観光客の誘致	154 人
全て満足している	54 人

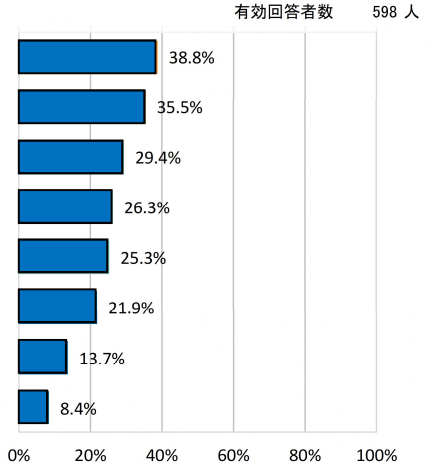
※複数回答のため，割合総計が100%を超えています。



「景観・美あふれる風格あるまちづくり」

選択肢	回答者数
市域全体の良質な景観整備・美化の推進	232 人
各地域の中心部や駅前など顔となる地区の景観づくり	212 人
花や緑を活かした身近な住まいの街並み景観の向上	176 人
施設の案内板や道路標識などのデザインの美化・統一	157 人
看板・張り紙などの規制	151 人
歴史的な建造物や町並みの景観保全と整備	131 人
美観地区を中心とする周辺の景観づくり	82 人
全て満足している	50 人

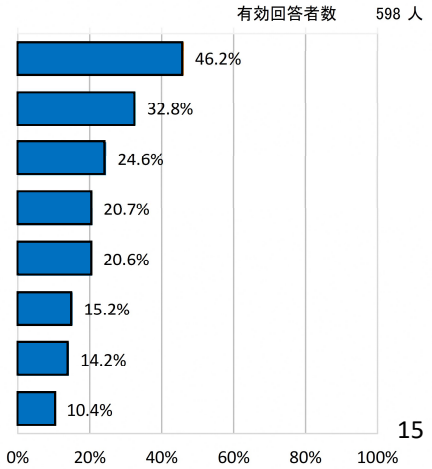
※複数回答のため，割合総計が100%を超えています。



「市民協働のまちづくり」

選択肢	回答者数
情報公開や情報提供の推進	276 人
まちづくりへの関心や機運を高めるための交流イベント開催	196 人
まちづくりに関する学習機会の充実	147 人
まちづくりの専門家やアドバイザーによる支援の充実	124 人
ボランティアやNPO等のまちづくり活動の支援強化	123 人
まちづくりのアドバイスを行う相談窓口等の体制の充実	91 人
優良なまちづくり活動を奨励・表彰・支援する仕組みの強化	85 人
全て満足している	62 人

※複数回答のため，割合総計が100%を超えています。



④ 計画の見直し　「現状・問題点と課題」

項目	現状・問題点	今後に向けた課題
人口構造 ・ 都市構造	● 人口はピーク期を迎え，今後は緩やかに減少 ● 少子高齢化が進展し，2040年には3人に1人が高齢者，後期高齢者は約3割増加 ● 市内のほとんどの地域・地区において，今後約25年（2015～2040年）で，高齢化率が30%を超えると予測 ● 各地域・地区間を結ぶ主要幹線道として未整備な路線が存在 ● 各地域・地区の中心部等では，多種多様な機能が集積	○ 本格的な超高齢・人口減少社会が到来する中，将来にわたって持続可能な都市づくりをすすめるためにも，多極ネットワーク型集約型都市構造の実現に向けた取組の推進が必要 ○ 各地域・地区の中心部を結ぶ幹線道路網を整備し，渋滞緩和による利便性や安全性の向上を図るとともに，円滑な交通ネットワークの確保が必要 ○ 広域拠点では，高梁川流域圏の拠点・中核市にふさわしい高次都市機能を強化するとともに，一極集中のまちづくりではなく，各地域地区の拠点を中心とした生活圏の利便性確保に向けた更なる取組の推進が必要
土地利用	● 市街地の面積は，約40年間（1976～2014年）で1.6倍に拡大 ● 郊外部での居住も多く，市街化区域内は低密度な市街地を形成 ● 市街化調整区域において非効率なミニ開発が進行したが，農地転用規制・開発許可の厳格化により，2013年から開発許可件数が減少傾向 ● 空き地や路外駐車場など，有効に土地利用が行われていない場所が，小さな敷地単位でランダムに発生する「都市のスポンジ化」が進行し，土地のポテンシャルが十分に発揮されていない ● 空き地・空き家がそのまま放置された場合，治安や景観の悪化等，まちとしての魅力や価値の低下にも繋がり，商業機能等の撤退といった負の循環に繋がる可能性がある ● 高齢化や子育て世代等の流出などにより人口が減少し，農業の担い手不足や，集落コミュニティーの維持が困難	○ 集約型都市構造の実現に向けて，無秩序な市街地拡散・拡大を抑制するとともに，地域特性に応じた計画的な土地利用を進めること が必要 ○ 各拠点では，土地の健全な利用や低未利用土地の有効活用など，「都市のスポンジ化」の抑制に向けた取組が必要 ○ 市街化調整区域などの既存集落では，少子高齢化・人口減少に伴う地域コミュニティの活力低下に対応する取組が必要
交通 ・ 都市施設	● 中心市街地から各地域・地区を結ぶ放射状の幹線などにより，公共交通ネットワークが形成 ● 路線バスの利用者の減少に伴い，多くの路線の減便・廃止が進み，不採算路線からの撤退が加速することが懸念 ● 路線バスやタクシーなどにおいて，厳しい経営環境，高齢化等を背景として担い手不足等が生じ，運行回数の削減や車両の更新が困難となるなど，公共交通サービス水準の確保が困難 ● 身近な場所に公共交通が運行されていない居住地では，自家用車が運転できない高齢者等の日常生活に支障 ● 鉄道駅において，改正されたバリアフリー法の基準に対応できていない駅が存在 ● 公共施設や社会基盤が老朽化しており，大規模修繕や更新等の多大な経費が必要となり，その修繕や更新等に必要な費用の確保が困難 ● 低密度な市街地において，道路などのインフラ等の新規整備や更新を続けることは，維持・修繕費用等の更なる増大を招き，将来世代に多大な負担を残すことに繋がる可能性がある	○ 各拠点間の公共交通のアクセス性の維持・向上や交通弱者などが移動しやすい環境づくり，バリアフリー化，利用環境の整備などにより，コンパクトなまちづくりを支える交通体系を充実することで，誰もが手軽にいつでも移動できる持続可能な公共交通ネットワークを実現させていくことが必要 ○ 都市基盤施設や公共施設などの計画的な予防保全による長寿命化を推進し，安全，適正に使用できる状態を保っていく必要 ○ 公共施設の施設総量の適正化を基本に，利便性の高いところに計画的に再配置を進めていく必要
市街地 整備	● 中心市街地おいて，歩行者が憩える空間が少ないなど，人中心の空間となっていない ● 児島・玉島・水島地域の商店街では，空き店舗の増加や歩行者の減少などにより，かつての賑わいが低下 ● 倉敷駅周辺をはじめ，市内の主要道路では慢性的な渋滞が発生しており，緊急車両の通行が妨げられるなど，住民の生活や安全，観光客の移動などに支障をきたしている ● 木造老朽家屋の密集や狭あいな生活道路など，居住環境に課題を抱える既成市街地が存在 ● まちなかや郊外部等に空き家が密集して発生し，地域の安全・衛生・生活環境・景観などに悪影響 ● 高齢者単独世帯の増加により，相続の際には，親族がとりあえず空き家としている住宅（先送り空き家）が問題視 ● 空き家の権利者が改修・除去費用を負担する余裕がないことや，建築基準法の接道要件などの制約により，再建築，大規模修繕等が困難	○ 広域拠点や各地域・地区拠点の都市機能の集積を促進し，暮らしを支えるとともに，居心地が良く歩きたくなるまちなかなど，活気を生み出す魅力的な拠点市街地となるよう，計画的な市街地整備の推進が必要 ○ 密集市街地の環境改善や狭あい道路の解消，増加が見込まれる空き家・空き地などへの対応等，それぞれの地区特性に応じた，安全・安心・快適・健康な居住環境への改善・整備が引き続き必要 ○ 倉敷駅周辺地区において，回遊しやすい魅力的な環境を創出することにより，倉敷駅北側と南側をつなぎ，一体的な賑わいを生み出すことが必要
環境 ・ 景観	● 宅地開発などに伴い，自然の豊かな緑が失われている ● 近年，CO2・フロンなどの温室効果ガスが大量に排出され，地球の温暖化が進行 ● 市内の歴史的・文化的な建造物のうち，老朽化による空き家化や解体に至る事例があり，貴重な環境資源が失われつつある ● 周辺の良好な景観に調和していない建築物，屋外広告物，土地利用などが見受けられ，歴史と自然が織りなす美しい倉敷の景観に影響を及ぼしている	○ 豊かな自然環境と共生し，次世代に継承していくため，自然環境の保全・再生・創出に向けた取組が引き続き必要 ○ 地域ごとの多様なまちづくりニーズを考慮しつつ，倉敷らしさを感じる歴史・文化資源などの保全・活用を図るとともに，各地域の地域の資源を活かしたまちづくりなど，地域特性を生かした景観の保全・形成に向けた取組の拡大が必要 ○ これまで持ち主や地域住民の協力のもとで行われてきた景観等の保全活動を次世代に受け継ぐとともに，市民・事業者・行政等がそれぞれの役割と責任のもと，連携して取り組むことが必要
安全 （防災）	● 地震や火災等に脆弱な木造密集市街地の形成，土砂災害警戒区域等への住宅の立地が進むなど，自然災害のリスクがある居住地が存在 ● 近年の異常気象に伴う豪雨等による内水氾濫や，平成30年7月豪雨での小田川堤防等の決壊等による浸水被害，近い将来発生することが予想されている南海トラフ巨大地震による大規模な被害の発生など，激甚化・頻発化する自然災害に対する市街地の脆弱性が懸念	○ 市民の安全・安心を守り，都市の経済成長を確保するためにも，多発する大規模自然災害や近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震などの発生に備え，市街地の防災機能の向上や地域の防災力の強化など，市民・事業者・行政が総力を挙げ，命と暮らしをまもる防災・減災対策を推進していくことが必要 ○ 水害対策においては，国・県・市・企業・住民等のあらゆる関係者が河川流域全体で取り組む流域治水へと転換し，ハード・ソフト一体の事前防災対策を推進する必要
協働の まちづくり	● 市民協働によるまちづくり体制の整備は進んだ一方，まちづくり活動を担う市民の高齢化やそれに伴う地域活動の低下などが顕在化	○ 官民連携による市街地整備や公共施設の維持管理，公共空間を活用したまちづくり活動など，市民・民間団体・事業者・行政がそれぞれの役割分担に応じて協働し，一体となって取り組むことが必要